



〈研究〉ボルシェヴィズム研究文獻小録

福田, 徳三

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 32(1):69-92

(Issue Date)

1922-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053391>



研究

ボルシエヴ井ズム研究文獻小録

東京商科大學教授

法學博士 福田 徳三

目次

- (一) 参考書目
- (二) 法制及施設
- (三) 學理評論
- (四) レニンの著作
- (五) 成立及沿革
- (六) 綱領類
- (七) 勞農憲法
- (八) 政治
- (九) 國際關係
- (十) トロツキーの著作
- (十一) アハリン及フデツクの著作
- (十二) 雜著
- (十三) 記述類
- (十四) 評論
- (十五) 非ボルシエヴ井ズム書類
- (十六) 叢書類

緒言

ボルシエヴ井ズムの學問的研究は經濟學者は勿論社會學者、政治學者、法律學者の缺く能はざる所である。我邦には英語で書いたものは可なり來て居るが多くは一種の偏見を以て豫斷してかゝるものであるから、公平客觀的の學問研究には助となり難いものである。丸善あたりに常にあるものでは例のジモン・スズネルムの Bolshevism, the enemy of political and industrial Democracy & The psychology of Bolshevism や近刊書では The Greatest failure in all history や其れからウォーリン

の Sovietism, the ABC of Russian Bolshevism according to the Bolsheviks & アントネリの Bolshevik Russia & ミリョーノフの Bolshevism, an international danger, its doctrine and its practice through War and Revolution や シーイーラッセルの Bolshevism and the United States. 等は汎く讀まれて居るが、概ねホルシエヴキズムは世界の脅威であると頭からおどかしつけた子供だましのもので、理論上及實際施設の上から眞にホルシエヴキズムの如何なるものなるかを嚴密に取扱つたものでないから却つて其眞相を誤る虞のあるものである。悉く書を信せば書なきに若かずとは、此類の書物に就ては、正さに至言と云はねばならぬ。——獨りバートランド・ラッセルの The practice and theory of Bolshevism. 1920. は流石一流學者の手に成るものとして讀むに値する。我邦では此書を以て誤謬や偏見に充つるものとする人もあるようであるが、其は著者の立場を考へれば無理ならぬことである。ラッセルは其心の奥底はマルキシストでもなければ、社會主義者でもない、一種溫和な無政府主義者なのである、彼が無政府主義の私生兒と吾輩が呼ぶ所のギルド・ソシアリズムに餘程共鳴して居るのは兩者其實は無政府主義であるが、之をバラタブルにすることを勉めて居る點が甚だよく似通つて居るからである。無政府主義から云へばホルシエヴキズムは、一つの誤謬である、故に其の立場に多く一致し能はぬは當然の事であつて、決して偏見や誤斷から出づるものではない。其れと同時に此立場から十分理解のある評論を期待し能はざること亦疑ふ可からざる所で、必竟は參考に資すると云ふに止るものである。

ホルシエヴキズムは大きな現象である、スバルゴ流に輕々しく片付けて仕舞ひ得るものでない。

少くともレニン、トロツキー、ブハリン、ラデック四人の著書の主要なるもの丈でも一應節を屈して通讀しなければ其學說の一般を知ることとは出来ぬ。實際の施設に就ては、書物の上で其眞相究をめ得可きではないが、日本の地にあつては、書物なり新聞雜誌なりに依るの外は、其研究の便がない。其れには、偏頗な爲めにする所あるものなどに迷はされてはならぬ。眞に公平忠實に事物の眞相を叙述したものを取らなければならぬ。唯手當り任せにボルシエヰズムと云ふ表題の本を何冊か見て、其れでボルシエヰズム評論などをやるのは學問研究者としては斷じて爲すべき所ではない。

筆者の畏敬する某氏は嘗て其發行にかゝる一雜誌にレニンやトロツキーの著者の英語書題を數々あげて居られるから、其様な書物が英語に譯出されて居るものと思つて、予輩は所々の書肆へ問合せたけれども其大部分は手に入れることが出来ず、本屋からは其様な英譯は未だ嘗て出て居らぬとの返事に接するものも數々ある。そこで其等は露文の書物の題を英譯して引いてあるものを其儘に抜書されたので、自ら其様な書物を見せられたわけではないかと疑つて見たが、某君に限つて其様な事をせられる氣支はないから、是れは予輩が不幸にして手に入れ能はざりしものと推定する外はない。而して今日に於ては、特別の便宜がなれば兎も角然らざる限り日本に在つて書肆のみを便りとする限り、大抵な人は予輩と同様此等の英譯書は之れを手に入れる便はないものと思ふ。此は誠に遺憾千萬な事ではあるが如何とも致方のない次第である。

然るに幸にも獨逸語には以上四人の重な著作は大抵（殆んど皆と云つても差支はあるまい）翻譯

せられて居り、中には數種の版本さへあるものもある、——其他ボルシエヴキズム研究の文獻に富むことは、英佛伊語に遙かに勝つて居る、——元より露語が讀み得れば翻譯になど依る必要はなく凡ての文獻は之を見得るわけ(手に入れ得るか否は日本に在つては分らぬ)であるが、予輩は不幸にして露語に對しては明盲目であるが爲め、不得已他國語への翻譯に依るの外はないのである。而して獨語譯が一番豊富であることは、實に願つてもない仕合と感ずるものである、——而して此等の獨語本は今日は左迄の困難なく、何れも僅少の價を以つて(多くは小冊子ものであるから、値段も甚だ安い)之を求めることの出来るのは、我々研究者に取つて無上の幸福と云ふべきである。

私は嘗て『マルキシズムとしてのボルシエヴキズム』なる論文を起草する際、文獻の蒐集に著手し、爾來今日迄繼續して居るが未だ来る可くして來らざるものも澤山あるし、到着はして居ても寓目する暇さへなきもの數十種あるが既に過眼した分だけで約百部以上ある。而して學問研究上主要なるものは粗取揃つたと信じて居る。今年の夏休みを幸ひに其等を整理しつゝ一通り眼を通した結果を自分丈けに止めて置かないで、同好の研究者參考の一助にもと、多少順序をつけ且つ若干説明を加へて茲に紹介して見る。唯書名丈けを並べたものには、次に掲ぐるマウトナーの書もあるが、其れでは、取捨の標準が分らぬから、多少説明を加へ且つ出来る丈け研究上重要なものを摘出することにした。

(一) 參考書目

第一にあぐ可きは國際勞働局刊行の次の書である。

1. International Labour Office, Labour conditions in Soviet Russia: systematic questionnaire

and bibliography prepared for the Mission of enquiry in Russia. London: Harrison & Sons.

年號は記してはないが昨年 1920 年刊行のものであつて、題名に示す通り國際勞働局が昨年露國へ視察委員を派遣したとき（此時バートランド・ラッセル氏も同行した）豫め研究の手引とする爲めに編製したものである。——而して主として勞働狀態を題としたもので必ずしも全般の調査を目的としたものでないから、其點は不十分ではあるが、然し主なものば勞働問題以外のものもかゝつてあるから、甚便利である。此の書はビブリオグラフィキーが主でなく勞働狀態の調査の要項を主としたもので、其れについては第一の權威である。——然しビブリオグラフィキーも可なり詳密なもので、百四十四頁から成つて居る。其のビブリオグラフィキーは英佛兩文で認めてあつて内容は次の如くに分けてある。

一、書物及冊子

二、雜誌論文

三、定期刊行物

四、一九二〇年一月一日以後の論文追録

五、主要書略解題

第五の略解題は研究者を助くること大なるものである。

次には、

2. Wilhelm Mautner, Der Bolschewismus: Voraussetzungen, Geschichte; Theorie; zugleich eine Untersuchung seines Verhältnisses zum Marxismus. Berlin, Stuttgart & Leipzig: Verlag von W. Kohlhammer, 1920. SS.368.

の巻尾に十五頁の参考書目が附録してある、此れは一九一九年六月一日迄の出版物にして獨逸語で書いたもの、獨逸語に翻譯のあるものを集録したのである。

内容は次の四部から成つて居る。

- 一、ホルシエヴキズム及共產主義者の諸著
- 二、ホルシエヴキズムに關する文献 (ホルシエヴキ以外の人の手に成るもの)
- 三、露國一般殊に勞働運動に關する文献
- 四、其他の參考書

此書の本文の事は後に紹介する。

3. Osteuropa-Institut in Breslau, Quellen und Studien. 1. Abteilung: Recht und Wirtschaft. 1. Heft. Russisches Wirtschaftsleben seit der Herrschaft der Bolschewiki nach russischen Zeitungen mit einer Einleitung von Dr. Wlad. W. Kaplun-Kogan 2. Aufl. 1919. Verlag von B. C. Teubner. の巻尾に Literaturnachweis が八頁に亘つて附録してある 此は若干説明を附したものであるから、研究者に取つて甚だ助けとなるものである、本文に就ては後に言ふ。

4. Fuehrer durch die bolschewistische und antibolschewistische Literatur, Herausgegeben von

Generalsekretariat zum Studium des Bolschewismus, Berlin 1919. (Sammlung von Quellen zum Studium des Bolschewismus. Heft 1.) Verlag von Kulturliga G. m. b. H. Berlin

は、吾輩不幸にして今日迄は未だ入手することが出来ぬ。

(二) 法制及施設

第一にあぐ可あは(一)の二と同一の Sammlung の第一冊たる

1. Osteuropa-Institut in Breslau, Quellen und Studien. I. Abteilung: Recht und Wirtschaft. 2. Heft. Die Gesetzgebung der Bolschewiki, ubersetzt und bearbeitet von II. Klibanski. Verlag von B. C. Teubner, 1920.

である。クリバンスキー氏は露國法制史通の第一人者で革命前露國民法論なる數冊の大著述を成して權威となつて居る人である。革命後非常に力を盡して此小冊子を作つて、勞農露國立法の大體を露國外の人に知らしむるに甚だ大なる助を與へた。

以上と必ず併せ讀む可き(一)の3の本文である。(書名前掲)

これは二百六十八頁から成る手頃の書物で、ブレスラウの露西亞研究所から發行したものである。右の研究所にはボルシエウキズム關係の文書は洩れなく集めてあつて、伯林の戰時新聞局外國部と其豊富さを競つて居るものである。カプレン・コーガン氏は此豊富な所藏に就て周到に研究して、ボルシエウキキ施設の記事及關係法令類を編集して此書を成したので、甚だ便利なものである。但し一九一九年後の新版出たりや否やを知らず。仍て之を補ふ爲めには Frankfurter Zeitung. に續載

せられるシユタング及ブンテルフォルド兩氏の露國通信が最も要を得て居る。兩氏とも獨逸の社會民主黨員で永く露國に旅行して事情に精通して居る人である。

3. Alfons Goldschmidt, Die Wirtschaftsorganisation Sowjet-Russlands. Berlin 1920. SS. 306.
は法律上からでなく、經濟上から勞農露國の經濟組織を記述したもので、分解圖數葉を挿入し親切丁寧に説明してある好箇の參考書である。

(三) 學理評論

第一に來るものは有名なゾムバルトの傑作

1. Sonbart, Sozialismus und soziale Bewegung.

の新版に書加られたボルシェヴィズム評論で、第八版一九一九年刊、第九版一九二〇年刊共に載せてある。極く簡單であるが流石ゾムバルト氏の老手に成るもので一言の冗句なく極めて要領を得、其本質を學問上から闡明してあつて學者必讀の文字と云ふ可きである、但し其のボルシェヴィズム觀に至つては吾輩は必ずしもゾムバルト氏に一致することは出來ぬ、猶ほ他日論述する機會もあらう。

2. Max Hirschberg, Der Bolschewismus, eine kritische Untersuchung ueber die amtlichen Veröffentlichungen der Sowjet-Republik. Muenchen & Leipzig. 1919.

此書は公刊文書に就て學問上から觀察したもので實際施設の評論は不十分であるが、極めて眞面目な篤學な研究である。

主としてレーニンの説殊に其名著 *Staat und Revolution* を評論したものは前提(一)の2である。私が『マルキシズムとしてのボルシェヴィズム』なる論文を執筆した際は右書は未刊であつたが、此書は右の拙文と稍や類似の研究を試みたもので、周到綿密儘かに一權威と爲す可きものである。但し其所論中私の考と異なる處が少くない、其れは何れ論究するつもりである。

四 レーニンの著作

レーニンの著書で獨逸譯のあるものは次の通りであつて、何れも種々な版があるが一番便利と思はるゝのは、*Arbeiter-Buchhandlung*, Wien, 8 Bezirk, Alsterstrasse No. 261. で發行したもので全部揃へて註文すると僅か七十クロネンに割引して送つて呉れる。(一冊賣の定價を書名の下に記して置く)

1. Die proletarische Revolution und der Regenat Kautzky.....K. 2
2. Die Diktatur des Proletariats und der Regenat Kautzky.....K. 12
3. Die naechsten Aufgaben der Sowjet-Macht.....K. 6
4. Kundgebungen (Der Zusammenbruch der zweiten Internationale. u. a.).....K. 15
5. Staat und Revolution: die Lehre des Marxismus vom Staat und die Aufgaben des Proletariats in der Revolution. (Die Diktatur des Proletariats).....K. 18
6. Die grosse Initiative.....K. 3
7. Die Wahlen zur konstituierenden Versammlung und die Diktatur des Proletariats...K. 6

8. Das Militaerprogramm der proletarischen Revolution.....K. 1
 9. Der "Radikalismus," die Kinderkrankheit des Kommunismus.....K. 14
 10. Ein Brief an die englischen Genossen.....K. 1
 11. Festschrift zu seinem Geburtage.....K. 3
- 此外に猶私藏中には別版のものが次の如くある。

1. Die Weltlage und die Aufgaben der kommunistischen Internationale; Rede in der ersten Sitzung des zweiten Weltkongresses der kommunistischen Internationale. Petrograd 1920. SS.29.

2. Erfolge und Schwierigkeit der Sowjet-Macht. (Kleine Bibliothek der russischen Korrespondenz No. 13-14) Rede in Petrograd am 13. März 1919. Berlin 1920. SS.63.

(五) 成立及沿革

一九一七年三月以前のボルシェヴィキの事を知るには一九〇五年の露國社會民主黨分裂から始めねばならぬ。此年開かれた第三回社會民主黨大會の記したものに Protokoll des Parteitages der russischen sozialdemokratischen Partei. München: 1905. がある。此と併せ讀むには、獨逸革命の時殺された社會民主黨中婦人黨員の最傑者たるローザ・ルクセンブルグ女史の Neue Zeit 1904.11. S.484. S.529 に寄せた Organisationsfragen der russischen Sozialdemokratie が最も要を得たものである。而して此文にはレーニンの絶版書たる Ein Schritt vorwaerts, zwei Schritte ruckwaerts. Genf

9104. の批評が載せてあるが故に殊に珍重すべきである。同じ Neue Zeit 1905. II. S. 68 には例のカーン・カウツキーが露國社會民主黨分裂の事を論じた一文が載せてある。即ち Die Differenzen unter den russischen Sozialisten と題する文此れである。

其以後の経過に就ては Sozialistische Monatsheften に次の二論文があつて、大要を知ることが出来る Roman Streltsov, Die beiden Richtungen in der russischen Sozialdemokratie 1909 II. SS. 1001 Die politische Lage und die Sozialdemokratie in Russland, 1908. I. SS. 408.

此外、一九一七年三月迄の事に就ては露語以外の國語には參考材料となるものは殆んどない。ボルシェヴィズムは一九一七年迄は、世界的重要を少しも有たぬ露國限りの現象であつたのである。

開戦となつてからのレーニン及トロツキーの諸論文は Krieg und Revolution: Schriften und Aufsätze aus der Kriegszeit. Zürich: Guertli, 1918. なる冊子に蒐録してある。此書にはオイゲン・ベツキン・ドルシュの序言の外次の諸論文が収めてある。

1. Trozki, Der Krieg und die Internationale.
2. Zinwojew & Lenin, Sozialismus und der Krieg.
3. Lenin, Der Opportunismus und der Zusammenbruch der zweiten Internationale.

此第一文は私藏に別刷本がある、一九一四年ミュンヘンで出版したもので八十四頁の一冊子である

(六) 綱 領 類

さて愈々レーニンが起つて國外にボルシェヴィズムの宣傳を初めてから世界的重要を得るようにな

つたが、其の宣傳綱領の骨子となつたものは、ブハリン著 *Das Programm der Kommunisten* (Bolschewiki, Zuerich: Verlag Union 1918. 此れである、此冊子が實に歐洲を否世界を駭かした宣傳の大役を勉めたものである、此の書にはラデツクの *Entwicklung des Sozialismus von der Wissenschaft zur That*. なる一文が序文として附載してあつたそうである。

此書は今は非常の珍本となつて居る、其れは瑞西政府が出版後間もなく發賣禁止し在本悉皆を沒收して仕舞つたからである、而して出版店主は其爲めに獄に投せられ、印刷所は閉鎖を命ぜられると云ふ大騒をしたのである。

然るに其後左様な無茶な事は沙汰已みとなり、獨塊に於てラデツクの序文なしの版が出た。即ち獨太利ではウキーンの *Die soziale Revolution* と云ふ雜誌社から一九一九年に、獨逸では伯林のアー・ホッフマンと云ふ本屋から同年に出版された、私藏本は二種ある。第一は *Revolutionsbibliothek* の第五冊本此れであつて頁數は百四頁である。第二は左の版本である。

Bucharin & Preobraschensky, *Das ABC des Kommunismus; populäre Erläuterungen des Programms der kommunistischen Partei Russlands* (Bolschewiki), Wien 1920. Bd. I. SS. 126. Bd. II. SS. 178. 問題となつたラデツクの序文も後に別刷本が出来た。私藏本は一九一八年ウキーンで出版された三十一頁の一冊子である、一九一九年伯林版のものもあるそうであるが其は所持して居らぬ。

此と相並んでボルシエヴキ思想の概要を手近かに分るよう書いたものはステクロー著 *We sind die Bolschewisten* ? A. Hoffmann's Verlag, Berlin 1919 である。此著者はバクーニン傳の著

(1913, Stuttgart) を以て名を知られた人である。

プハリンの説明の足らざるを補ふものとして甚だ要を得て居るものは Thesen ueber die sozialistische Revolution und die Aufgaben des Proletariats waehrend seiner Diktatur in Russland. と言ふ無名の小冊子である。此書は理論を簡明に説き就中 Diktatur des Proletariats の何を意味するかを明快に叙述してあるやうである。但し此本未だ入手することを得ぬは残念である。バートランド・ラッセル著 The practice and theory of Bolshevism の第二十八頁に “a valuable work which I possess only in French” と記してあるは、恐らく此書の事であらうと思ふ。而して以上の綱領を更に布演し、實際施設の抱負を披瀝したものととしてはレニンの Die naechsten Aufgaben der Sowjet-Macht があつて、これは必讀のものである。其版本には種々ある即ち

1. Promachos-Verlag in Belp-Bern, 1918.
2. Internationale Bibliothek, Heft 3. Die “Aktion,” Berlin 1919.
3. A. Hoffmann's Verlag, Berlin 1918.
4. Arbeiterbuchhandlung.

出版のもの等此れである。此以外に筆者の知らざる版本も必ず存することと思ふ。

此書は一九一八年四月頃に脱稿したものでレニンの世界的獅子吼の第一聲とも見る可きものである。附録として Resolution des Allrussischen Zentralen Vollzugsausschusses der Arbeiter-, Soldaten-, Bauern-, und Kosaken-deputierten betreffend den Bericht des Genossen Lenin ueber die naechst-

folgenden Aufgaben der Sowjet-Macht vom 29. April 19. 18. なる決議文が載せてある。

此と合せて必ず見ざる可からざるはトロツキーの次の演説筆記である。Arbeit, Disziplin und Ordnung werden die sozialistische Sowjet-Republik retten. Basel: Verlag der Buchhandlung des Arbeiterbundes. 1918. 私藏本は無年號伯林 Hoffmann's Verlag 刊行本で十八頁の冊子である。此書は主として労働者の自制紀律を説いたもので其れが嚴密に行はれるのでなければボルシェヴィズムの成功は望まれないと云ふことを力説したものである。ボルシェヴィズムを過激主義などと邦譯して亂暴無法な事を能事とするものなりと速斷する人々はトロツキーの此書を見れば定めて意外の威を催すことであらう。

(七) 勞農憲法

勞農露國の憲法に就ては Die Verfassung der russischen sozialistischen federativen Sowjetrepublik, Bestimmungen des 5.ten allrussischen Sowjetkongresses angenommenen in der Tagung vom 10. Juli 1918. Promachos-Verlag. Belp-Bern. 1918. がある。此れは一九一八年伯林の Die Action 雜誌にのせてあり、一九一九年には同社に於て單行本として別刷を刊行して居る。

又た専門家は誰も知つて居るカール・ブルエーンベルヒ氏編輯の Archiv für die Geschichte des Sozialismus und der Sozialbewegung の第八卷第二及三冊 (1919年度) にも勞農露國憲法の獨逸譯が載せてある。題して Das Grundgesetz der russischen Sowjetrepublik と云ふ。憲法の註譯書ではアノルド・ストルツマンの Verfassung der russischen sozialistischen federativen Raete-Republik

zuerich: Verlag Union. 1918. がある。

(八) 政 治

ボルシェヴィズムの政治學とも見る可く又た其のバイブルとも言ふ可きは言ふ迄もなく私が『マルキシズムとしてのボルシェヴィズム』に於て主題としたレーニンの著作 *Staat und Revolution: die Lehre des Marxismus vom Staat und die Aufgaben des Proletariats in der Revolution*. (Die Diktatur des Proletariats) Berlin 1919. で此れには獨逸譯版が幾種もあることは右拙文中に述べて置いた通りである (此書には、英譯もあつて、一頃丸善あたりにも來て居たが、何故か此頃は一向見受けない)。此書に對するカウツキーの駁撃書は、前掲の拙文に掲げて置いた、又たデール氏の著其他プロレタリア獨裁政治の事を論じた著作は數々あるが、其等は今悉く省いて置く。此書と合せ見る可きは、主として政治的闘争を論じたトロツキーの著 *Von der Oktoberrevolution bis zum Brester Friedensvertrag*. Promachos-Verlag. Belp-Bern 1918. である。此書には、一九一九年伯林の A. Hoffmann で出版した刊本もある。私藏本は一九二〇年ミュンヘンで出版したもので八十五頁の冊子である。此書は實際的立場を知るに甚だ適したもので純理的なるレーニンの *Staat und Revolution* と好一對を爲すものである。

革命の經過をボルシェヴィキを立場から叙述したもので、甚だ讀むに値するものは、ブハリンの次の書である。Bucharin, *Vom Sturz des Zarismus bis zum Stuerze der Bourgeoisie*. Zurich: Verlag Union. 1918. 此書は (一) 露國に於ける階級闘争及革命、(二) 帝國主義獨裁政治よりプロレタ

リア獨裁政治への二篇から成つて居つて、簡潔にして要領を得て居るものである。私藏本は一九一九年伯林刊行の百四頁の冊子である。

(九) 國際關係

ホルシェヴキズムの國際關係に就ては

Karl Radek. Die internationale Lage und die aussere Politik der Raeterregierung, Rede gehalten am 3. September 1918 in der vereinigten Sitzung des Moskauer Rates der Arbeiter- und Roten-annedepuтиerten, der Fabrikkomitees und Gewerkschaftenvertreter. がある。私藏本は Propaganda-ausschuss des Zentral-Exekutivkomitees der Räte 發行のもので、十七頁の小冊子である。

次には

Khariton-Chavichvily, Offener Brief an den Genossen Jean Longuet.

も亦た見る可きものであるが、残念なう、私は今日迄は未だ此書を手に入るゝことを得ぬのである。外交關係往復文書には、次の二種がある。

1. Die deutsch-bolschewistische Verschwoerung, 70 Dokumente ueber die Beziehungen der Bolschewiki zur deutschen Heeresleitung, Grossindustrie und Finanz. Bern: Der freie Verlag. 1919.
2. Ein diplomatischer Notenwechsel ueber den weissen und roten Terror (Die Noten des Schweizer Gesandten E. Odier und die Antwort des Volkskommissars der auswaertigen Angelegenheiten S. W. Tschetscherin). Zuerich: Fritz Platten. 1918.

前者は、米國の戰時公報委員局の出版したもので、獨逸の軍事當局者や、民間財界の巨頭がホルンエツキキと内通して居たものなるを證する材料として公けにせられたものである、が、其全部が全くの偽造であるとの事である。後者は、瑞西の公使オチアー氏が勞農露國の外務總長チチェリン氏と往復した文書で、此れは本物である、筆者は前書は之れを見るを得ないを残念とする、後者はAktion, 雜誌第八卷三十三、三十四號に續載されてある。

(十) トロツキーの著作

トロツキーの冊子物では

1. Terrorismus und Kommunismus: Anti-Kautzky. Wien. 1920. SS. 166. herausgegeben vom westeuropäischen Sekretariat der kommunistischen Internationale. Hamburg. 1920.
2. Sowjetrussland und das bürgerliche Polen. (Kleine Bibliothek der russischen Korrespondenz No. 5.) Berlin, 1920. SS. 24.
3. Die Arbeiterklasse und ihre Sowjetpolitik (Kleine Bibliothek der russischen Korrespondenz No. 15-16. Berlin 1920. SS. 54.
4. Die rote Armee, eine Rede gehalten in der Sitzung des allrussischen zentralen Vollzugsausschusses der Sowjets der Arbeiter, Bauern, Soldaten, und Kosaken депутierten in Moskau am 22. April 1918.

此れは勞農露國の軍政を知るに便利なものである。此書には 1919 Basel 版もある。

(十一) プハリン及ラデツクの著作

プハリンの著作には既掲以外次のものがある。

1. Anarchismus und wissenschaftlicher Kommunismus. 2. Aufl. Hamburg. 1920. SS.14.
2. Bucharin & Preobraschensky, Das ABC des Kommunismus. 2. Bde. Populaere Erlauterungen des Programms der kommunistischen Partei Russland (Bolschewiki).

此第二の事は既に前に言つた。

ラデツクには次の如く澤山の著作がある、其數に於て彼は確かにボルシェヴィキの頭領たるに恥かしからぬものと云ふ可きであらう。

1. Die Entwicklung der deutschen Revolution und die Aufgaben der kommunistischen Partei. 2. Aufl. Hamburg. 1920. SS.118.
2. Programm des sozialistischen Wirtschaftsaufbaues. (Kleine Bibliothek der russischen Korrespondenz No. 2.) Leipzig 1920. SS.46.
3. Die Masken sind gefallen: eine Antwort an Crispian, Dittmann und Hilferding. Verlag der kommunistischen Internationale. 1920. SS.33.
4. Proletarische Diktatur und Terrorismus. Hamburg. SS.44.
5. Rosa Luxemburg, Karl Liebknecht. Hamburg. 1921. SS.48.
6. Der Zusammenbruch des Imperialismus und die Aufgaben der internationalen Arbeiterklasse.

Rede gehalten am 7. Oktober 1918 im Moskauer Sowjet-Theater. Muenchen SS.46.

7. Die russische und deutsche Revolution und die Weltlage: Begruessungsrrede auf dem Gruehdungsparteitag der kommunistischen Partei Deutschlands am 30. Dez. 1918 nebst einem Vorwort. Berlin 1919. SS.32.

8. Proletarische Diktatur und Terrorismus. Hamburg. SS.40.

9. Die russische Sowjetverfassung. Wien. SS.15.

10. Die auwaertige Politik des deutschen Kommunismus und der Hamburger nationale Bolschewismus. Herausgegeben von der kommunistischen Partei Deutschlands. Wien SS.19.

11. Theorie und Praxis der 2¹/₂ Internationale. Bibliothek der kommunistischen Internationale.

5. Bde. Hamburg. 1921. SS.56.

12. Die Entwicklung der Weltrevolution und die Taktik der kommunistischen Parteien im Kampfe um die Diktatur des Proletariats. Berlin. 1919. SS. 66.

(十二) 雑誌 著

以上の外の手に成る小冊子で見える可き物は

1. Viator, Russland und Deutschland. Berlin. 1918.

2. Berliner, Der bolschewistische Staat. Berlin: Verlag der Lichtstrahlen. 1919.

等である

(十三) 記 述 類

勞農露國の記實として、ボルシエヴキ自らの著したものに、次の三種がある

1. Sturm, Das bolschewistische Russland. Hamburg. 1919,
2. Price, Die Wahrheit ueber Sowjetrussland. Berlin. 1919.
3. Die Sunden des Bolschewismus. Von einem Bolschewik. Berlin 1919.

(十四) 評 論

ボルシエヴキズム評論として既掲のゾムバルト、ヒルシユベルグ、マウトナー等の物には、到底及びもしないが、公平客觀の見地を示したものに次の數種がある。

1. Gawronsky, Die Bilanz des russischen Bolschewismus, dargestellt auf Grund authentischer Quellen. Berlin 1919.

2. Kosowsky, Das bolschewistische Regime in Russland. Otten. 1918.

3. Vorst, Das bolschewistische Russland. Leipzig 1919.

4. Paquet, Im kommunistischen Russland. Jena. 1919.

何れも忠實な研究視察の結果に成るものと云つて差支ない、而して根本資料に立脚するものであるから信頼するに足りる。米國あたりで續出する Sensational なものとは同列を以て談ず可きではない。スバルゴ等に満足しない人は、宜く此れ等に就く可きである。猶近刊の Hans Kelsen, Sozialismus and Staat; eine untersuchung der politischen Theorie des Marxismus, Leipzig 1920 年 8 月 1 日

エヴキズム論と題しては居らぬが、學問研究上大なる價值のあるものである。私は此書を第一位に推す可きものと信じて居る。

(十五) 非ボルシエウヰズム書類

ボルシエヴキズム攻撃の立場から書いたもので眞面目なものには Axelrod, Rusanoff & Suchowin, Stimmen aus Russland, Stockholm, 1918. がある。(不眞面目なものは一切茲に掲げることを見合せる)。

最近の非ボルシエヴキズム評論としては、有名な獨逸社會民主主義者(家族制度の研究を以て名を知られて居る)ハインリヒ・クノー等になる Die Neue Zeit 39 Jahrgang 2. Band, 1921, Jan-Apr. に掲げた Der Bankrott des Bolschewismus と云ふ論文がある。(Die Marx'sche Gesellschafts und Staatstheorie I. Bd. 1920 Berlin. 亦參考を要す)

此論文は、主として實際施設の方面に就て、ボルシエウヰズムの行き詰り、破産矛盾の事實を痛く指摘したもので、相應に眞面目なものと見た。然し無政府主義者ラッセルの評論が嫌らないものである如く、正統派社會民主主義者の此論も、學問上不動的價值を有するものと云ふことの出来なはい言ふ迄もない。「主義者」の「他主義」の評論は、何れも他山の石として見る可きもので、金科玉條として奉ず可き次第のものではない。其他最近ボルシエヴキズム攻撃論として、相應に價值ありと思はるゝものが可なり數多く出た、何れ他の折に紹介することあらう。

(十六) 叢書類

には次の數種がある。

1. Kleine Bibliothek der russischen Korrespondenz. Auslieferungstelle fuer Deutschland, A. Seehof & Co. Berlin.

此内には既に前に紹介したものが若干あるが、念のため改めて其全部を順に掲げて置かう。

- No. 1. A. Schlapnikow, Die russischen Gewerkschaften.
No. 2. Radek, Das Programm des sozialistischen Wirtschaftsaufbaues.
No. 3-4. Die Beschlusse des IX Kongresses der K. P. R.
No. 5. Trotzki, Soviet-Russland und das buergerliche Polen.
No. 5. Gredeskul, Befreite Arbeit.
No. 7-10. Lasowski, Die Gewerkschaften in Sowjet-Russland.
No. 11 Churchill als Verschworer.
No. 12 Bagdanow, Was ist proletarische Dichtung?
No. 13-14. Lenin, Erfolge und Schwierigkeiten der Sowjet-Macht.
No. 15-15. Trotzki, Die Arbeiterklasse und ihre Sowjetpolitik.
No. 17. Die Thaetigkeit des Allrussischen Metallarbeiter-Verbandes in den Jahren 1917-20.
No. 8. Die Probleme der Sowjet-Ukraine.

其後も續刊せられて居るものと想ふが No. 19 以下のものは手に入らないから省略。

「十八・二五 追記 No. 19 以下 No. 45 迄數日前に到着した、然し未だ目を通す邊がない、何れ紹介する機會もあらう。」

2. Bibliothek der kommunistischen Internationale Verlag der K. v. Auslieferungstelle fuer Deutschland. Verlag C. Hoymann Nachfolger (L. Cahnbley Hamburg II.)

3. Die kommunistische Internationale. Organ des Exekutivkomitees der K. I.

此れは、獨、露、佛、英語版が同時に刊行されるそうである。第一號は一九一九年八月出版で、其れは、僅かに六十三頁の小冊であつたが、第六號（一九一九年十月刊）に至つて百七十六頁となり、最近着の第四十號は、更らに其倍（即ち三百十五頁）に膨脹して居る。内容も段々豊富となり又整頓して來た、これは、No. 1. のことを知るには、是非なくてはならぬものである。但し郵便で來る間に何處かへまぎれて行くものもあると見へて、私藏には、若干の缺號がある、一寸之を補充する見當がつかないで實は困つて居る次第である。

以上で粗ぼボルシェヴィズムの學問的研究上重要なものだけは、大部分を紹介し得たつもりである。此外私藏中には最近着したものも可なりあり、又た目を通す暇のない爲め、洩れたものも必ず多少あることと思ふ。唯だ此小録が若干にても、研究者の參考となり、又た此稿を一覽せらるゝ博雅の叱正を得て、筆者の目と手の届かざる所を教へらるゝ機會を得ることあらば望外の幸とするものである。（十七・十六稿、十八・二五校、十九・二再校）

右小録は、大正十一年の夏休中に起稿し更らに再度校訂したものであるが、種々の都合の爲め、

漸く今日になつて初めて公けにすることにしたものである。従つて、其後到着した數十部に就ては、一向言及してない、其等は何れ機會があつたら、更らに紹介することゝしよう。讀者願くは其不備を寛假せられよ。(十・十二・十一記す)